

先進校に学ぶ  
キャリア教育  
の実践

CASE 1

兵庫・私立 甲南高校・中学校

図書館がリードする

中・高・一貫の情報活用教育

取材・文／藤崎雅子 撮影／佐藤洋

情報活用能力の育成

総合的な学習の時間

図書館との協働

>> School Data  
 普通科／1919年創立  
 生徒数／1192人(男子のみ)  
 進路状況(2007年度実績)／大学 94.7%・  
 専門学校 0.5%・  
 その他 4.8%  
 兵庫県芦屋市山手町31-3  
 TEL 0797-31-0551

Outline

キャリア教育の全体像

情報活用能力の育成を軸に  
総合学習をプログラム

兵庫県芦屋市の高台にある私立甲南高等学校・中学校は、同じ学校法人が設置する甲南大学への進学が開かれた中高一貫校だ。6力年のゆとりを生かした同校の教育方針について、教頭の山内守明先生は説明する。

「本校は1919年の設立当初から、知識の詰め込みではなく、徳・体・知の調和のとれた『ひと創り』を掲げてきました。近年は健全な心・創造

性・文化的能力 思考力と探求心 強く生き抜く 体力をキーワードに、コース制の導入や教科教育の見直しにより、多様化する生徒の進路に対応しています」

そんな同校の図書館は、97年の校舎建て替えを機に内容面も抜本的に改革し、新・図書館を中核に据えた情報活用教育を推進してきた。「情報活用能力」は、キャリア教育において「人間関係形成能力」「将来設計能力」「意思決定能力」と並んで育成すべき能力の柱にあげられているものだ。同校でも、現代社会における「ひと創り」に重要な要素として、自ら調べ考える自学の姿勢や論理的な思考・判断力を含めた総合的な情報活用能力の育成を目指して充実を図ってきた(図1)。

その代表的な取り組みが総合的な学習の時間だ。各教科で少しずつ情報活用要素を取り入れるだけではすべての生徒に確実に身につけさせるのは難しいからと、専任教師が体系的に指導する形を選択。まずは、中学3年間の総合的な学習の時間を使った「情報活用」が誕生した。図書館の活用方法の基礎から学び、情報収集・まとめ・発表を繰り返し経験する。これを受ける形で、他校の先進事例も参考にしながら、高校文系クラスの総合的な学習の時間「Project」が考案された(理数クラスは「特別実験」という別プログラム)。中学での学習を基礎に、もう一歩進んだテーマ研究にじっくり取り組み。そして、これらの授業には図書館が欠かせない存在になっている。中・高一貫の取り組みにより効果





司書教諭  
中津井浩子先生



教育研究部  
吉沢郁生先生



教育研究部長  
中原 敦先生



教頭  
山内守明先生

図1 情報活用能力育成のためのカリキュラム

学年	目標	カリキュラム
中1	●情報収集力の育成 ●読書習慣の育成	
中1	●論理的な思考力・ 情報分析力の育成	○総合的な学習の時間「情報活用」 ○「自学自修」(土日を利用して行う、 各自がテーマを持って調べ学習や探求活動)
中3	●総合的な情報活用能力・ 問題解決力の育成	
高1	●情報モラル・情報スキルの習得	○教科「情報」
高2・ 高3	●テーマに対する探究活動 ●プレゼンテーション能力・情報発信 技術の習得	○総合的な学習の時間「E-Study」 ※高2は文I・IIコース・高3は選択 ○「特別実験」※高2理数コース

図3 OBワークショップの講師

- 居酒屋経営(S51年卒)
- 弁護士(S54年卒)
- 医師(S56年卒)
- コンピュータ会社勤務(S60年卒)
- 銀行員(S62年卒)
- クレジットカード会社勤務(S63年卒)
- ホテル勤務(S63年卒)
- 建設会社勤務(H3年卒)
- 総合建設会社勤務(H4年卒)
- 広告会社勤務(H7年卒)
- 市立小学校教員(H9年卒)

※2008年第2回目の例

図2 「情報活用」の活動内容

中1	図書館利用教育 ○植物調べ ○県調べ ○新聞記事スクラップ
中2	○ディベート ○新聞作り
中3	キャリアリサーチ ○職業調べ(ポスターセッション) ○OBワークショップ(年2回) ○職業調べ (PowerPointを使った発表) ○レポート作成

を上げる、その内容について次から見ていきたい。

Close up ①

総合的な学習の時間

## 図鑑の使い方から学び

## 中3では職業調べに挑戦

中学の総合的な学習の時間「情報活用」のプログラムは、「情報活用」の実践のために同校に着任した司書教諭 中津井浩子先生が全国学校

「図書館協議会利用指導委員会編(92年)の「資料・情報を活用する学び方の指導」(利用指導)体系表を目安に具体策を考案し、現場に合わせて改良を重ねてきた。授業用のプリントやワークシートもすべて手作りだ。例えば中1用だけでも年間45枚程度を用意。「情報整理方法やまとめ方などは適宜サンプルを示し、中学生でも理解できるように工夫しています」と中津井先生。授業は中津井先生と司書または司書教諭の資格をもつ非常勤講師2人が分担。加えて、各クラスの担当司書が授業を支援する。

3年間の流れを追ってみると、中学1年では、

まず図書館利用や読書に慣れることから始められる(図2)。図鑑を使ってみる「植物調べ」、情報カードを使って情報整理を行う「県調べ」など、情報収集・整理について学んでいく。中学2年では、集めた情報を取捨選択し自分の意見と合わせて人に伝えられるよう、「ディベート」や「新聞作り」に挑戦する。

中学3年で行われるのは、進路意識の醸成と組み合わせた「キャリアリサーチ」という授業だ。異なる切り口で職業について調べる機会が3回ある。1学期は興味のある職業についてのポスターセッション。2学期は適性検査の結果で出た職業についてパワーポイントにまとめて発表。3学期は「働くということ」について自分で問いを設定して論文形式でレポートを書く。例えば「仕事についてためになること」厳しい道のりをどう乗り越えるか「働く目的／人はなぜ働くのか?」などをテーマに調査・研究を行い、ワープロで7～8ページにまとめる。

6月と11月には、多様な職業の卒業生を招いて「OBワークショップ」も開催される(図3)。毎回OB15人程度を招き、OB1人につき生徒20人程度の小グループで、仕事の楽しさや難しさ、学生時代の話などを聞くものだ。開催前に質問内容の整理方法を学ぶなど、ここでも情報活用の視点が生かされている。

3年間の指導にあたって、中津井先生には配慮していることがあるという。

「経験により生徒はフットワークよく情報を使



OBワークショップでは生徒が司会を務める。OBの話のあとは、質疑応答の時間も設定



「ポスターセッション」では、各自が興味ある職業の「明」と「暗」をこのようなポスターにまとめて発表

図4 E-Studyテーマ例(2007年度)

テーマ	サブテーマ
●主な国の法律と警察	犯罪を犯したときの対処はどう違うのか
●六甲アイランド	人工島の未来
●地方問題	なぜ夕張市が経営破綻したのか
●野球界の裏事情	なぜ裏金問題が起こるのか
●児童労働	なくすにはどうしたらいいか
●戦後の食変化と日本の学校給食の変化	その変化によって学校への影響
●スポーツウェアの機能性	スポーツウェアは今後どのように進化するか
●グラフィティアート	なぜグラフィティアートが芸術と認められないのか
●ジーンズについて	どのようなジーンズが売れるのか
●睡眠時間について	睡眠時間は、性格に影響があるのか

## 高校では実社会や専門家から 情報収集してテーマ研究

高校の総合的な学習の時間は「E-Study」と呼ばれるが、その語源について企画・運営を担当す

「いこなすようになりませんが、深い思考がまだ足りません。そこは私たち教師のかかわり方が大切です。教える」というのではなく、対話しながら生徒の自主性や探究心の掘り起こしを助けられればと思っています」

る教育研究部の部長 中原敦先生は説明する。

「この活動は、国際・環境・経済・経営・法律・社会問題といった領域から自らテーマを見つけ、校外での体験(Experience)を含めて1年間かけて探求(Exploration)していきます(図4)。そうして調べた内容を発表して(Expression)、参加者と意見を交わし(Exchange)、啓発し合うものです。これら4つのキーワードの頭文字から命名されました」

授業では、クラスを3分割した15人程度のグループを編成。各グループ、教科横断で教師が一人担当となり、生徒の主體的な研究の援助にあたる。全教員が担当となる対象だが、学習の手順と方法をまとめたハンドブックがあり、スムーズに進行できるといふ。また、情報の収集・整理のため、中学の「情報活用」と同様に授業は図書館にて司書のサポートのもとで行われる。

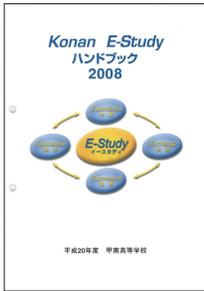
「E-Study」の大きな特長について、教育研究部の吉沢郁生先生は「フィールドワークがあること」と言う。これは、テーマを深めるために甲南大学や企業などへ出向き、実際の現場を見たりインタビューしたりする活動だ。各自の計画書をもとに2学期に実施し、事後には報告書を作成して報告会も行う(図5)。中津井先生は、「こうした図書館の外で得られる情報こそ大切だと考えている。「ある生徒はジーンズのブランドの立ち上げをテーマにアパレル会社を訪問しようとしたが、大手企業には何社にも断られ、現実の厳しさを身をもって知る体験をしました。フィールド

図5 フィールドワーク報告書の記入例

高校2年	A組	番	氏名
テーマ	酸性雨は本当に危険なのか		
フィールドワークの目的	酸性雨の危険性について調べる		
実施日時	11月1日(金)13:00~14:00		
訪問先	兵庫県立健康環境科学研究所 大気環境部		
主な質問事項・調査事項とそのまとめ(箇条書き)	<ol style="list-style-type: none"> <li>酸性雨の人体への影響 昭和48~51年に関東で目や皮膚に痛みを感じる被害があった。</li> <li>なぜ酸性雨によって湖の生物や植物が死んでしまうのか 水中では、土の中のアルミニウムが酸性雨によって浮き出て、魚のえらに付着する。酸性の強い水の中でプランクトンは生きることができない。</li> <li>水道水と酸性雨を比較 中に含まれる化学物質などは、酸性雨の水の方が少ない。</li> <li>中性の雨が降ればベストなのか pH5~5.6ぐらいがベスト。中性の雨が降っても、生物に何らかの影響をあたえる。</li> <li>酸性雨を仮に飲み続けるとどうなるのか 発ガン性物質が体内に蓄積される。</li> </ol>		
その他学んだ点	世間では、酸性雨の問題が大きく取り上げられているが、専門家はそんなに大きな問題とは考えていない。雨のpHが少し下がったぐらいの意識である。		
今後の学習に生かしたいと思った点/新たな学習課題/感想	水道水の安全性について今後検討していきたい。中性の雨が及ぼすと思われる影響についても調べたい。他にもいろいろと参考になる話を聞くことができ、フィールドワークに良かった。		

ワークを受け入れてくれたのが中小企業であったことから、中小企業がどう生き残っていくかという、彼の真の探究が始まったようです。図書館で何でもできると満足してはだめで、ほんの外に出て自分がどれだけ知らないかに気づいてほしいと思います」

中学・高校にわたり、職業や学問について自分でテーマを見つけて研究する経験を繰り返した結果として、「明確な進路目標をもつ生徒が増えた」と中原先生は感じている。卒業生が就職活動の時、「先生の言っていたことが今やっと理解できた」と話すこともあり、中津井先生は「その重要性にすぐ気づかなくても、将来役に立つ時がきつとくるはず」と信じているという。



「E-Study」の手作りテキスト。全50ページに授業の流れや手順がまとめられている

図8 図書館を利用した授業(07年度)

学年	授業
中1~3	情報活用
中1、高2・3	国語
高1・2	保健
高1・2	LHR
高2・3	E-Study
高2・3	英語
高3	理科
高3	心理学
合計	790時間

図7 貸出冊数の推移

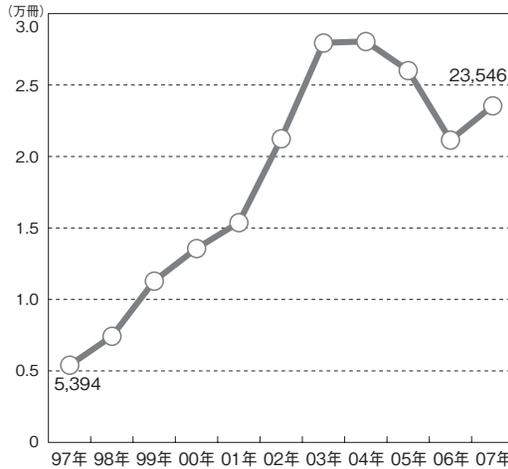


図6 図書館運営の体制

【図書館スタッフ】

- 図書館長
- 司書教諭
- 司書(3人)

【図書館運営委員】

※委員(10人)の担当教科と学年

- 国語/高2
- 社会/中2
- 英語/高1
- 数学/高3
- 理科/中3
- 体育/中2
- 芸術/中1
- 館長/中1
- 司書教諭/中1
- 司書

Close up ② 図書館との協働

## 生徒の図書貸出数は10年で4倍以上に

同校の情報活用教育の活動拠点である、図書館に注目してみよう。蔵書数は6万4千冊。「情報活用」立ち上げ当初は授業に必要な書籍すら不足し、近隣の公共図書館から大量に借りて補っていたが、毎年4千冊ペースで増やして充実させた。運営スタッフは、館長、中津井先生、3人の司書の計5人(図6)。また、諮問機関として図書館運営委員会があり、10人の委員は各教科・学年からバランスよく選出されるため、学校全体の動きを反映することができる体制だという。

図書館からは頻繁に情報発信される。中学新入生には各教科の学習内容や読書との関連が解説されている冊子「学習と読書―自学のすすめ―」、高校生には推薦図書40冊の紹介を中心に編集された「高校生のための読書ガイド」などを配布。また、「甲南図書館通信」の発行やHRでのブックトーク(あるテーマに関する書籍を何冊か取り上げておもしろさを紹介する活動)など、日常的に読書を促進する活動が行われている。こうした体制整備とスタッフの地道な努力は、生徒の利用率向上につながった。貸出冊数はこの

10年間で4倍以上に増加し、昨年度は約2万4千冊(図7)。生徒一人あたり年間20冊程度借りている計算だ。

「休み時間や放課後、図書館には大勢の生徒の姿があります。気軽に立ち寄り、友達の待ち合わせに使われたり、保健室代わりにカットバンをもらいに来る生徒もいたりして(笑)。生徒にとって居心地のよい場所のようです」(中津井先生)

## 各教科との連携を積極的に推進

授業での活用も活発で、図書館で行われる授業は年間790時間にのぼる(図8)。数多くの授業を受け入れるため、図書館は環境の整備に努めてきた。同時に複数クラスの授業が可能ないように、椅子とテーブルを配置したコーナーを2カ所設置。クラス人数分のモバイルパソコンも備え、館内の無線LANにより好きな場所でインターネットが利用できる。

図書館を利用した授業は、総合的な学習の時間以外にも様々な教科で行われる。例えば「保健」では、毎時間のテーマに沿って、生徒が調べたことをもとに授業を行い、そのあと教師が補足しながら解説するという展開をしている。その準備として、学期初めの3時間分を図書館での調べ学習にあてている。

その際、総合的な学習の時間同様に司書が一

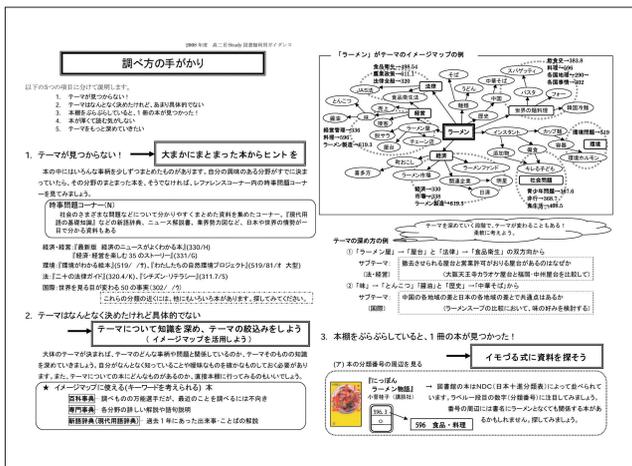


「キャリアリサーチ」の専用コーナー。職業関連の書籍が2つの本棚にびっしりと並び



図書館で2クラス同時に授業が可能のようにテーブルと椅子が配置されている

図9 「E-Study」で利用されるパスファインダーの例



人担当として付く。司書はパスファインダー（あるテーマを調べるための手がかりについてわかりやすくまとめたもの図9）を配布して説明するなど、生徒の情報収集・整理をきめ細かくサポートしている。

この「保健」の例のような授業実践や図書館が連携できることはないか、中津井先生は常にはかの教師の授業内容にアンテナをはっているという。目に付いた教材などをもとに雑談から入るといったコミュニケーションに努めるうち、最近はその先生方からも声がかかるように。授業で紹介した書籍が図書館ですぐ手に取れるように展示するなど、小さな連携から増えているという。

INTERVIEW

### 「情報活用」「E-Study」で印象に残っていることは？

「OBワークショップ」で世の中にはいろんな会社と仕事があるんだなと実感したのですが、なかでも印象的だったのは整形外科の先生のお話です。医師になった経緯や現在の仕事についてのお話から、人の役に立ちたいという思いが伝わってきました。自分も、ジャンルは違えど、その気持ちは共通するかもしれないと感じました。今はまだ目指す職業は決まっていますが、将来を考えるよいきっかけになったと思います」  
 高校2年・明石太郎さん(写真左)

### 図書館はどのように利用している？

「授業に必要な本を借りる以外にも、時間があればふらっと立ち寄ることが多いです。週1回くらいは来て、おもしろい本を探したり、インターネットで趣味のことを調べたりしていますね。司書の方には、おススメの本を聞いたり、欲しい本をリクエストしたり、よく頼っています」  
 高校2年・野村卓矢さん(写真右)

さらに中津井先生は、図書館の役割をもう一歩先へ進めたい考えた。

「現在の学校が抱える様々な問題は、多忙化する教師が生徒と十分に会話できなくなっていることに大きな原因があると思います。先生方の業務負担が軽減されれば、生徒との時間ももつとできるはず。そのために、私たち図書館スタッフが必要資料がすぐ手に入る体制を整えたり、タイアップして効率的かつ効果的に授業が行えるようにするなど、ブレインとしての図書館の機能を強化したいのです。先生方の状況を見ながら、少しずつ連携を深めていきたいと思っています」

### >> 甲南高校に学ぶ実践ノウハウ

- キャリア教育で重要な要素の1つとされる情報活用能力の育成を目指して、総合的な学習の時間をプログラム
- 6年間の発達段階に応じたテーマを設定し、情報収集・まとめ・発表を繰り返し経験させる
- 図書館に授業ができるスペースを設置。司書のサポートを得ながら授業を展開
- 授業者による質の差が出ないよう、教材を充実。適宜サンプルを示して生徒にもわかりやすく
- フィールドワークを実施し、書籍やインターネットによる情報収集の限界を知らせる
- 様々な教科で図書館と連携することで、教育効果を高めるとともに、教師の負担を軽減

図書館は単なる「書庫」ではない。キャリア教育推進の重要な一翼を担うことができ、学校全体の教育の質を向上させる可能性をもつ。同校の取り組みは、図書館の役割の大きさを改めて教えてくれる。